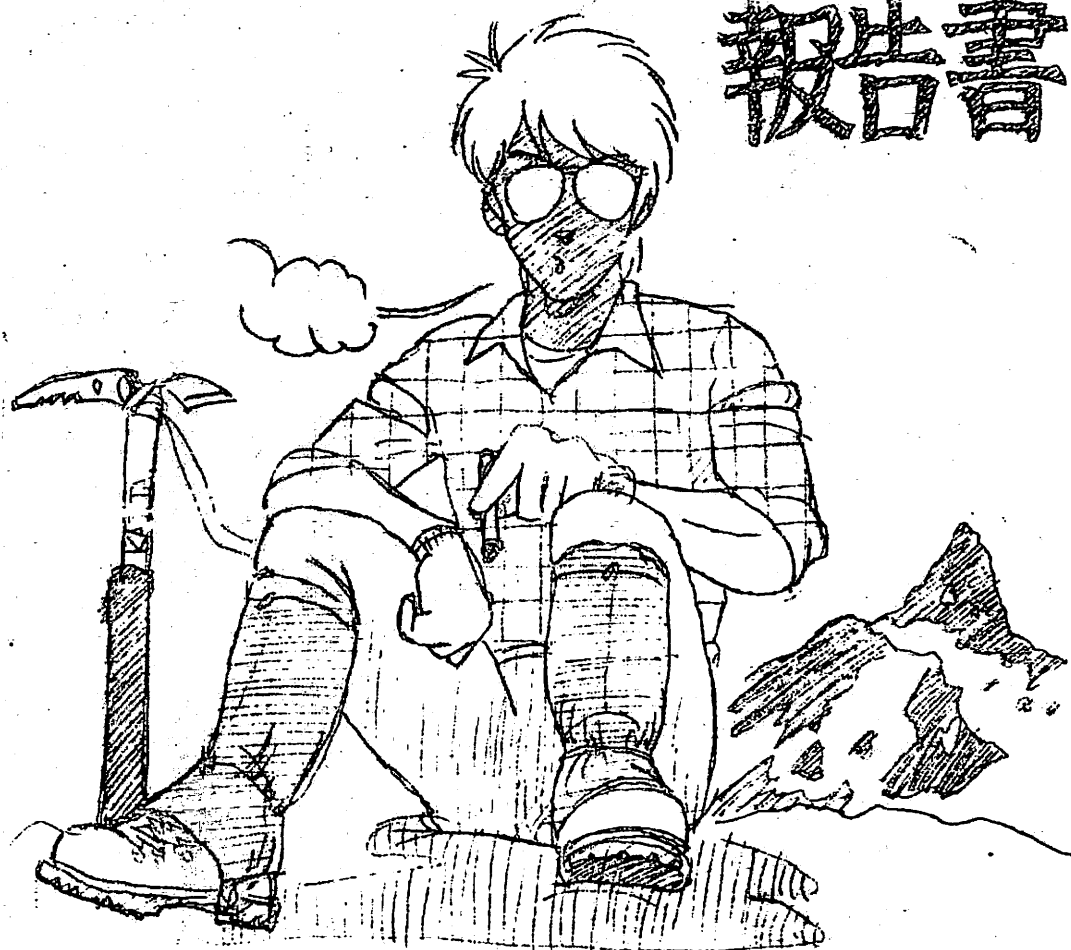


'85 年度

# 新人合宿山行 報告書



信大山岳会(SAC)

★ 目次 もくじ、もくじ、もくじ ★

才1日目	鳥々宿～白沢出合(A)	1～3 Page
才2日目	白沢出合～横尾 (A)	4 Page
才3日目	横尾～涸沢～56の川(A)	5 Page
	四峰・北条・新村ルート (B)	6 Page
才4日目	横尾～涸沢 (A)	7 Page
	四峰・北条・新村ルート (B)	8 Page
才5日目	横尾～涸沢～奥穂 (A & A')	9 Page
才6日目	横尾～松高尾根～奥又白池 (A)	10 Page
才7日目	横尾～槍沢～槍岳 (A)	11 Page
	小槍 登攀 (B)	12 Page
	横尾～旧槍沢小屋 (C)	12～13 Page
	扇日雪後ルート (D)	13～14 Page
才8日目	横尾～上高地(下山)(A)	15 Page
係の報告	○装備 ○会計 ○Essen	17～18 Page
個人の反省		19～25 Page

第1日目 5/26 くもり 記入者 小野

Aパーティー L水谷, 三野, 中村(副), 小野, 松田

町室 → 島々 → 二俣ノ木ル → 瀬戸沢出合  
 5:25 9分 → 5:55 2P → 4P → 7:55

5P → 岩魚留小屋 → 2:35 → 徳平峠 → 白沢出合  
 11:45 3P → 10P → 4:15 12P → 6:30

1P, 2P くもり 島々の二俣まで林道を歩く。松田が靴ずれを起す。

3P, 4P くもり時々晴れ 山道に入り松田, 小野の足がちよくなる。松田がバテル。

5P. くもり時々晴れ。松田, 小野の足がさらににぶり、小野の足がすり出す。松田が足にまめ、靴ずれを起したのが悪化、岩魚留に到着。

7, 8P くもり 7, 7の重さが骨身にしみる(小野談) 小野・松田の足がさらににぶり、パーティーのスピードをさらに遅くし世迷急ぎがけら。

9, 10P くもり 雨が降り出しそうは雲行となる。ひたすらガクガク(小野談) 最後の急登に松田, 小野のバテが激しくなり、峠を裏手に小休車をとる。ようやく峠に着。明神が美しく、水がうまい。

11, 12P くもり 下りに足がガタガタになる。T.S着。

第1日目 5/26 くもり

記入者 江口

日パ-テ- 八木, 川端, 飛田, 江口, 稲葉

島根 → 岩魚留小屋 → 徳本峠 → 白沢出合  
5:55 5P 10:50 11P 11:45 13P 18:24

### <特記事項>

道がところどころ落ちていた。岩魚留小屋～徳本峠で橋の  
落ちている所があり、倒木を伝って川を渡る  
上部にはところどころ雪があるが水みあとがある。  
徳本の下り上部は雪田が広がり通行注意。

### <感想>

今日は、しっかりバテてしま。てみなさんに御迷惑をかけて  
すみませんでした。  
3P目と4P目をモよおし、5P目では目まいをもよおして  
気力がもたなくなりました。それでモまわりの声に響いて  
登りましたがついに夕P目くらいで寝こんでしまいました  
。特に森さん重いザックを背負ってくれてありがとうございました  
ました。

第1日目 5/26 (モリ) → 晴れ 記入者 豊田

Cパーティー 角谷, 藤田, 瀬川, 中村, 豊田

5:55 島々発 → 岩魚留小屋 → 徳本峠

11:00

3:45

→ 白沢出合  
18:24

計 12ピチ

岩魚留小屋まで他のパーティーにもあまり遅れず順調に歩いた。

峠の直前で中村が足を滑らし、てしまいペースダウン。だが、

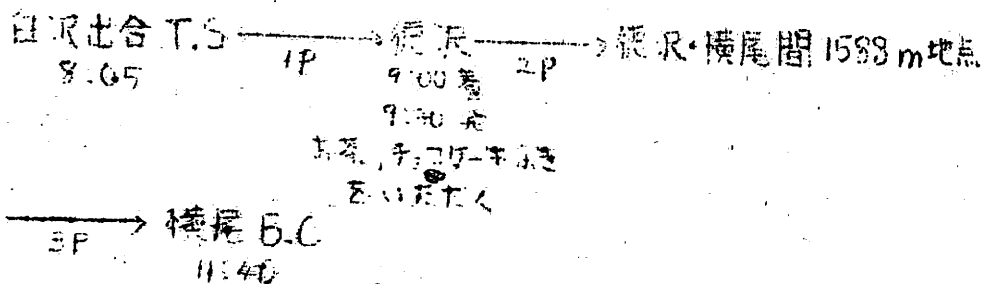
峠には他のパーティーより早く着いた。

島々から白沢出合までの歩く距離と荷の重さについて研究

のためここに入り込んだ。

# 第2日目 5/27 晴教 記入者 飛田

メンバー △ 藤田, 古賀, 森, 角谷, 水谷, 三野, 川端  
 中村剛, 中村浩, 瀨川, 豊田, 松田, 江口, 稲葉  
 小野, 飛田



その後 藤田さんをおそく上級生は屏風岩へ。  
 1年はおき集め。

今日は短か、夫が、昨今の徳本峠越えの影響からか  
 怪計があまりない日調に結構 疲れました。  
 明神から徳沢へ寺のいくと左側には、前線や雪などが  
 見え興致しました。  
 途中、和園と地形の講習がありました。自分の事前の  
 研究不足で地形の把握ができませんでした。  
 午後は新薬の、休養でした。明日からは雪訓が始まるの  
 で、きつくと気合を入れていかなければならぬと  
 思っています。

5/28

記入者 松田

Aバ子- L 藤田 古賀 森 角谷 川端 豊田  
小野 中村ゆ 中村た 江口 瀬川 飛田 箱葉 松田

4:20 晴 BC 出発

6:56 洞沢 着 雪訓 (直上降、斜上降、トラバ  
スビッケルスト、下、グリセード) 雪は柔い所が  
多かたが、所々、硬い部分があった

12:10 洞沢 発 ヲ頂の北へ向う

13:05 ヲ頂の北 着 (松田 尾山と藤田 北と着)

13:54 ガスと 氷とれが降り始めた中 出発 洞沢へ  
尻セード、グリセードで降りる

14:<sup>40</sup>~~50~~ 洞沢 着 氷とれ止む

14:50 " 発

帰りは 短時間 向て 下れた 氷とれで 雪が少し  
減っていった

15:45 BC 着 (松田 尾山と着)

Bパーカー L水谷 三野

4:10 BC出発

7:15 IVのゴル着 四峰の下でのトラバースが  
シビア (ハルキトをかじる)

8:25 インセルの200mくらい下 ルートを確認  
C沢の末端を左側から約20mくらい登って  
岩場をTに上りて登り出した (本峰はルセ  
から50mくらい登った) 10m 2人で71-で  
登り、次に20m 水谷が71-、上からザイルを  
垂し、三野が10mくらい登って、10分ほど雨!  
見れば本峰頂上辺りにはガスが20分ほど中絶決定  
水谷が上から20m懸垂、更に2人で20m  
懸垂

10:30 C沢に出る、Pに合流する / 11:25 IIIのゴル  
まで雨、微塵寒い / 12:30 下り出す、シビア / 13:25  
IVのゴル 本隊と合流 / 14:40 洞涸 / 15:45 BC

気づいたこと IVのゴルからIVへのトラバースは、日急で  
大変な71-70 一度、又水谷が下へつめた方が確実!  
C沢は、一ヶ所 大きく登っていったが簡単に下れた。



5/29 記入者 松田

Aハ-ア- C 藤田 古賀 水谷 森 三野 小野  
中村丸 中村巾 穂田 江口 瀬川 豊田 箱葉 松田

4:10 雲り BC 祭

5:55 横尾本谷出合上部 天気更々寒い 6:25 祭

7:15 洞沢七ツ下前 霧雨

雪訓 (7ツ下7ツ下 7ツ下 7ツ下)

途中 雨に列中止

10:25 洞沢祭

10:45 BC 着

今日は昨日に7ツ下の雪訓だった。昨日以上の  
天候が悪く、午前中で雪訓切上げとなり。又、  
前穂、奥穂、洞沢などのピーク付近にはガスが  
かかり、今日は3、4のこけへ行けなかった。

合宿中に一度でもいかに北下の大展望を  
おぼろげにみた。

B 10-91- L 角谷 川端

4:00 BC 発

5:45 2P 洞沢ヒコリ

6:40 3P IIIの2ル

8:10 4P 四峰ヒコリ

} — 五峰 ~ 奥又白谷  
~ C沢 —

9:10 登攀開始 霽雨 & ガス

1P 35m 取付カリー TOP 角谷 川端

2P 25m カリー TOP 角谷 (A0)

取付を内達して別のルートに登った

雨・ガスで岩が濡れ滑る為中止

懸垂下降 2P (25m, 35m)

10:40 終了

11:20 取付発

12:05 IIIの2ル 着

} C沢

13:10 " 発

13:35 洞沢ヒコリ

14:40 BC 着

5/30 (木) 5日

角谷、水谷

A11-テ-

└ 藤田、古賀、川端、三野

稲葉、江口、小野、瀬川、飛田、豊田  
中村<sub>E</sub>、中村<sub>H</sub>、松田

- 4:00 B.C. 発
- 5:15 淵沢と横尾本谷との出合
- 6:15 淵沢ヒュッテ
- 10:50 白出のコル
- 12:08 奥横山頂
- 14:55 淵沢ヒュッテ
- 4:10 B.C. 着

横一列  
雪訓

横一列のとき雪面がかわった。雪訓(モ、クステア、クリセ-  
ド、滑落停止)。白出のコルまで一年生が先頭、コルから  
山頂までの間に2回 fix した。

横一列のときとてもたいへんだった。奥横山頂に立ったときは  
感動した。(豊田)

A11-テ- の別動隊

└ 水谷、江口、松田

- 4:00 B.C. 発
- 4:20 松田が醒れ出し、水谷と松田があかる
- 6:40 淵沢と横尾本谷の出合
- 9:00 淵沢ヒュッテ
- 9:30 ガイソンの1/4位 登った所 (雪訓地)
- 11:05 松田がつく
- 13:50 雪訓終了 本隊がコルに見え初めてかき終える
- 14:10 淵沢ヒュッテ

↓  
本隊

5/31(金) 6日目 晴のちくも

A パーティー L 藤田, 角谷, 水谷, 森, 川端, 三野  
稲葉, 小野, 瀬川, 飛田, 豊田, 中村, 中村

- 5:15 B.C. 発
- 6:45 まつこうおねト入る前にバケツをほめて休む
- 9:12 奥又白池 雪訓
- 12:20 休
- 3:20 B.C. 着

雪訓: 今までの総復習, 一年生が直上, 直降, 斜上  
斜降, トラバースの説明, スタカトにおける  
ダケミ, クビレイ(肩-腰)の練習

クビレイに入る前, 止められるかどうか不安だったが, やってみると不安は消えたがあまりうまくできなかった。(豊田)

B パーティー L 古賀, 下田, 三口, 松田

- 6:30 B.C. 発
- 6:45 横尾
- 8:15~50 徳沢園 三の下田, 三口は古賀, 松田を待つ
- 9:13~10:40 明神 ↓車
- 11:00~35 小梨平
- 11:45~13:00 パスミカ 松田, 三口は診療所へ, 下田, 松田は下山
- 13:30 徳沢園 ↓車
- 13:40 新村橋 奥又がよく見えるが自分は川がなくてと  
てきずき念じた。ただ今度とあきらめる
- 14:40~50 横尾
- 15:10 B.C. 着

三口の足はつまははがこぎリバーヒルヒガセでほう帯を巻かれる  
はげしい運動に注意

松田の足は両足ともほう帯でぐるぐる巻に之れる歩行は  
困難と判断される感染症に注意 (三口)

6月1日(土)

Aパーティ 藤田(L)、古賀、三野、川端、船葉、小野  
瀬川、飛田、豊田、中村(9)、中村(2)

沢  
槍をつめ、槍ヶ岳登頂。

6/1. BC出発 くもり 3:50

→ 俣出合 ① 4:53 3:05  
5:05 3:50  
この日、Bパーティと別行動  
1年小野、5年古賀  
も別行動。

旧槍沢小屋 ① 6:00 6:15  
この先より、雪深。  
水くむ。

槍沢中間 ① 7:14  
雪は程度に積っている。  
槍沢下部は、クバズアリ。

槍沢上部 ① 8:20 8:40  
暑い。

肩の小屋横 ① 9:40  
ピッケル、テポ

槍ヶ岳山頂 ① 10:15 11:40  
小槍、Bパーティかみえる。

肩の小屋横 ① 12:10  
カッパを着て、グリセード。  
履セードで下降、Bパーティ合流。

槍沢中間 ① 12:40  
古賀、小野と合流。

旧槍沢小屋 ① 1:40  
Cパーティと合流する。  
この日、横尾まで小袋を  
とりながら下山。

→ 俣 ① 3:05

BC着 ① 4:30

(感想) 天候は今一つで残念であった。長い雪深  
でキックステップが厄しなから登るのは、かなり体  
力を要し、馬脚をあらわしてしまった。スタミナ不  
足を感じた。

山菜採りは、好きだが、ますいのではないだろう  
か。(味ではなく、行為が……)

B.パーティー 角谷(L)、水谷.

B.C~槍天~小槍~大槍、登攀

- 6/1 BC 発 ◎ 3:50
- 一ノ俣 ◎ 4:45 本隊と別れてさきに出発。
- 旧槍天小屋 ① 5:50
- 槍肩小屋 ① 8:35 つめたい風、雪はざくざく。

= 肩の小屋からトラバースして小槍に取付こうとする。  
 すし回り込んだところに、山靴、アゼンをテボ。小槍  
 に向かうが、かなり急な岩場の climbing down (III)  
 と、雪渓トラバースが出てきて手向くる。

取付 ◎ 9:50 なかなか、おっからず手向  
 くる。

ZP. 25m. A1でこえる。

終了 ◎ 11:30 かなりシビアな、カステに  
 沿ったルート、40m  
 懸垂 20m + 15m で會系  
 槍・小槍のゴル、  
 小屋への途中 5m.

- 肩の小屋 ◎ 12:30
- 一ノ俣 ◎ 3:10
- BC 着 ◎ 4:30

小槍は始め IP目を Face でいこうとしたが難  
 しいので、すぐやめる。あとは、ピンがよく効いていな  
 かったことと、天候がよくなかったこと他には、問  
 題なし。

C.パーティー 加藤(L)、江口.

- 6/1 BC 発 9:00
- 横尾 9:16
- 9:52 IP.
- 12

槍沢口...

10:30 ここでしばらく本隊を待  
11:40 つが、一向に来る気配  
がないので、さらに先に  
行く。

旧槍沢小屋跡

~~11:40~~  
12:13 これより先は雪面の為  
ストップ。望みがここでし  
しばらく本隊を待つ。

後は本隊と同じ

江口の足は、これはど森村 普通に歩けた。旧槍沢  
小屋跡 種のカアト岩を見てこんな登る人いるの  
かなあと思った。待つ時間が長く寒かった。

6月1日 Dパーティー L 岩村、森

4:05 B.C. → 5:20 T4尾根取付 ⊙ 3P 7:20 T4  
(雲稜取付) ⊙ → 3P 9:15 扇岩テラス ⊙ → 13:40  
登攀終了 → 15:10 屏風の耳 ⊙ → 16:05 最低  
コル → 17:05 B.C.

(感想) 全体的に岩が堅く快適な登攀が楽し  
めるが、所々、とんでもない岩が浮いているので、  
注意が必要。4PのA1はホルトのリングが  
とれているので、3mm ショリングと4mm ショリン  
グが必要で。





6月2日(日)

A.P. 行 藤田(L) 古賀 岩村、加藤 角谷、水谷 手  
馬、森 柏葉 江口 小野、穂川、飛田、豊田、

計町(外) 甲町(内)

上高地を経て下山

- ① 9:35 EC 出発
- ① 9:28 計町 橋
- ① 慰霊碑  
慰霊碑をきれいにし、お神酒をそそぐ、我々もいっぴか写る時も貴重であるつとぬかつ。
- ① 計町 橋
- ① 10:20 待天園  
御好意に可なる片茶を御ちゆらにちる。11:00 ありがとうございます。TAXI ンキセルで下山せうあ、E。
- ① 11:36 甲神 下はマ前
- ① 12:15 上高地  
パスターニル  
ビールで乾杯。緊張かときれたなごみTime。ミーティング
- ① 部屋 前  
ミーティング終了。

(感想) いよいよ下山という事で、荷も軽くなり、気持であら。しかし、遠征者の慰霊碑をきれいにし、慰霊とうを捧げる同様の、慎重な気持ちになる。このACでの仲間意識(チーム力、OBなどとのつながりetc)の強固さを皆同見Eより気がする。  
 や、(3)下山してからのなごみTIMEと、ミーティングとの両方かしたりにしているのは、さすがと思つた。

# XLR250R

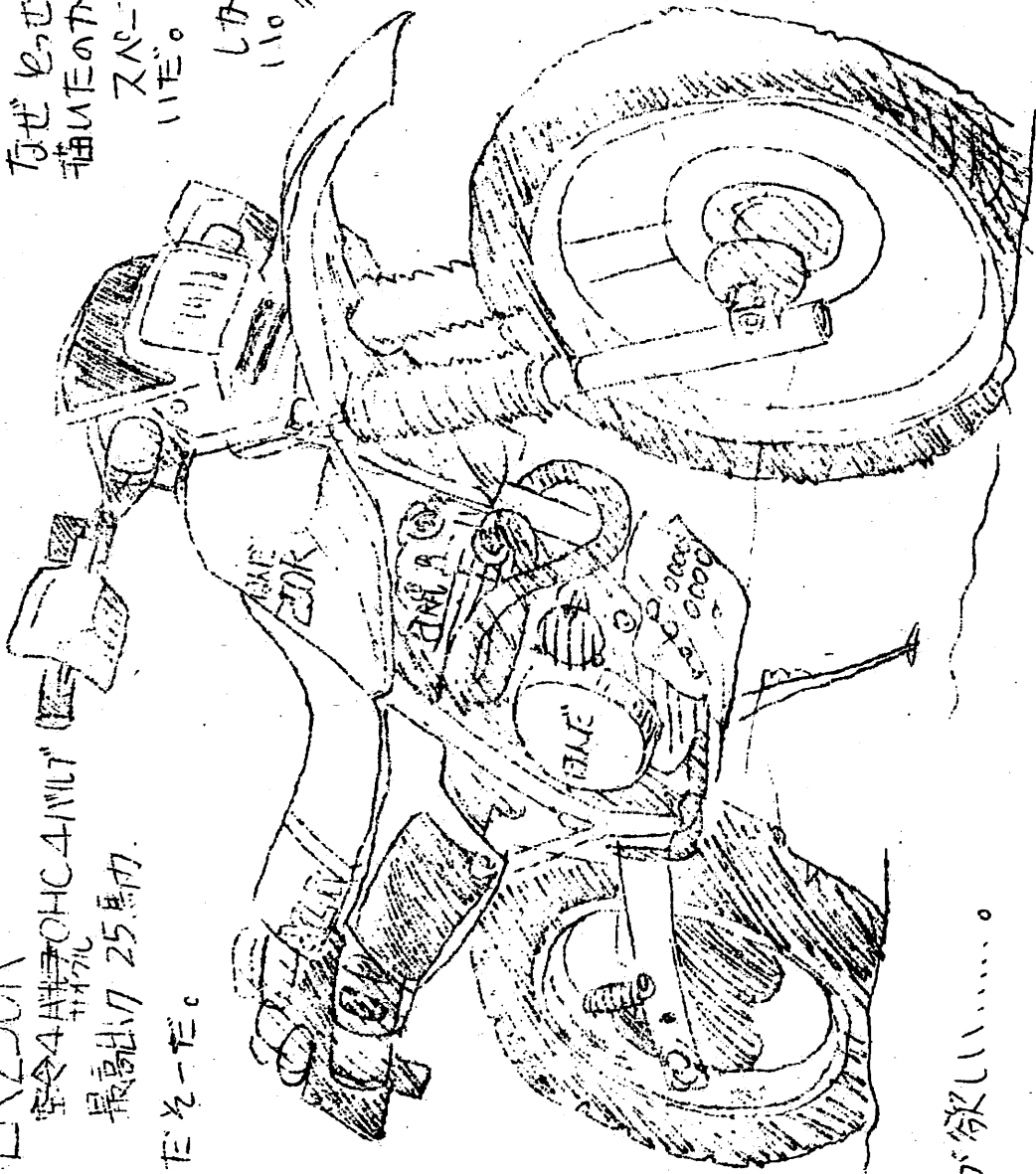
空冷4気筒OHV4バルブ  
キャブレター  
 最高出力 25馬力

だぞーだ。

なぜとっぜん XLR250 を  
 抽いたのかは、チブである。  
 スペースが空いたせ  
 いで。

しかしバイクが欲しい  
 (110 家か) 立岩まで  
 行くのはしんどい。  
 伊那や長野へ  
 いくのも面倒だ。  
 (僕は他人と  
 一緒に乗る、乗合  
 バスや電車は、  
 まらいでず。)

だけど事故り  
 たくはない。



金が欲しい……。

係の報告

○整備

整備費	5085円 ( <del>8000/day</del> )
ガソリン	9.6ℓ (80cc/1人/day)
メソ	105本 (15本/day, 5%essen)
ローソク	3.5本 (0.5本/day, 0.1本/テント/day)

- ・毎日薪を3版を炊いた上(2は、ガソリン・メソの使用量が大きすぎた。  
→ 一年中が不燃したばかりではなく、上級生の指導が不十分だったのではいなか?
- ・毎日の整備返却時の管理が不十分だった。
- ・テントの分損が不十分で、設営時かなり手際とた。
- ・ガイルのキエツが不十分で、9mmφ×インの長さが2~3m道、ていた。
- ・ガイル・ツェルトの袋に松電袋を使用したか、すくに袋が破れ、役に立たなかった。
- ・も、とし、かりしたスコップが壊れた。
- ・全体として整備日当日に時間がかかりすぎた。準備日以前に細かいキエツ等をやっておくべきだった。

<川端>

○会計

工	セ	書	95,558円 (796円/人)
装	備	費	5,085円
及	通	費	52,880円 (3,203円/人)
医	販	費	4,610円
酒	代		6,320円 (372円/人)
電	話	代	440円

合計 164,893円

合宿費

$10,000円 \times 16人 = 160,000円$  } 合計 164,000円  
 $4,000円 \times 1人 = 4,000円$  (加藤さん)

★ 不足分 893円は伊那の音響から補充。

- 交通費はキャラバンのおかげで大幅に削減できたので、これから極力お願いしたい。
- エッセイ書は少し高かったが、7飯の内容はその分充実していたと思う。
- 今回靴のサイズ合わせが不十分だったため、医療費として余分な支出が出た。合計以前に山行全体に大きな影響を与える事はないと、わかりました。4エッセイが望ましかった。

## ○ Essien

シユース、麦茶の使い方が、よかった。余りほった。また、マカホラの味がよく、よかったので、考え直すべきた。

昼食のトーストは手間がわかるが、味付け次第で使えるようになるだろう。

米の量は、230g/人・日 強だった。

あと10gくらい増やしても良いだろう。

最終日の天ぷら油が足りなかった。

(三野)

## ◎個人の反省・感想

古賀：楽しい合宿だった。八

よく  
お話し  
け

上級生は、もっとしゃべ  
るべきだ。1年生はよ  
くかんじりました。

加藤：ケガで合宿に参加で  
きず、残念であった。

角谷：上級生にちょっと動員に  
はすである。セミを含め  
て反省する点は多い。  
それに合宿後半で少し  
だらけてしまった所があ  
った。2年ぶりの新人合宿は  
たのしかったよ～。

森：リーダー部員としての初の合宿  
だったが、才1目標である下  
級生の指導に少し甘さが見  
えた。特に準備段階での不  
手際が最大反省材料である。  
在松のリーダー部員が僕一人  
だということもあったが、こ  
れは言い訳、主にはい。こ  
れからは気をひきしめてやる  
必要がある。合宿中でも、体  
力的な面精神的な面で、  
まだまだ「トレーニング」が必要  
であることを考じた。山に登って  
いる時ももっと大局的な見方がで  
きるように努力したい。

川端：準備のときに僕個人の不手際で  
全体に大きな迷惑を掛けてしまって非常  
に申し訳なかつた。

無闇やたらに又鳴るのは良くない  
が、それにしても今回の合宿は(全体にペース  
が落ちていたせいもあるかもしれないが)  
多少緊張感・厳しさに欠ける点があった  
ように思われた。

。個人的には、体的にまだまだ不十分で  
一年に遅れる様な事は無かつたものの、一年  
山形ペースで歩いていても、かなりしん  
どい時があったのでより以上の充実感ほかり  
たい。

。上級生にしてはまだまだ時間の使い方が  
不手際だった。もっと時間をうまく使うようにし  
たい。

。登山に関してはアプローチにかなりの時  
間が消費されるのでアプローチ問題について  
もう一考してもいいと思う。

。一年の時より行程がはるかに短かく感じ  
られ、体的・精神的に多少ではあるけれど  
ども充実したのかと思うと、とてもうれしかった。

。前回は、たまたま上級生に言われた事をし  
て、他のメンバーに遅れずについて行  
こうとするだけで精一杯だったが、今回の合宿  
では上級生の色々な面が分かって来て楽し  
かつたし、又、色々考えさせられた。

。今日の合宿は、僕にとっては上級生として最初の合宿で、自分が本当に上級生として振舞えるかどうか非常に不安だった。2年生として一年の指導に当たって、事故もなくなんとか無事合宿を終了したものの、上級生としてはボーダーラインをそれか或いはそれ以下だったように思う。一年の指導にしても、自分と照らし合わせてみて、果して自分自身本当にし、かり出来ているかと考えてみると、なかなか声を発して注意することが出来なかった。これからはもっと胸を張って注意・指導に当たれる様自分自身をもっともっと充実させていきたいと思う。

三野：一年生を指導する立場だったが、口数が少なかったと思う。特に後半はわがっているだろうと思うことは口に出さなかった。しかし、これは怠慢以外の何ものでもない。またつまらないミスが多く、自分自身信頼できる上級生ではなかった。以上、二点、深く反省し、今後の課題にしてゆきたい。



会員の新人合宿では、学ぶべきことが多かった。雪訓や、  
 色々な生活技術 団体行動時の協調性の重要さなどなど。  
 合宿形式での山行は初めて、自分には非常に印象的でした。特  
 に雪訓は、甚く思うようにうまくいかなかった。先輩の注意もしばしば  
 したが、厳しい指導が、しかりした技術と身につける早道だと  
 思いました。天気はあまり悪くはなかった。全体的に振りが  
 ですが、稔いほどよく登り、山の上まで。山の上まで。山の上まで。  
 返って、自分はまだ。山のこたえを感じた。(トビウ)

いよいよ合宿生活の場  
 た。の合宿生活の場  
 は、先づき、この場  
 事柄の、この場  
 だ。先づき、この場  
 学んだ。この場  
 訓も、この場  
 雪訓も、この場  
 山行も、この場  
 4日、この場  
 の技術も、この場  
 自分も、この場  
 又、この場  
 奥、この場  
 沢、この場  
 入、この場  
 へ、この場

新人合宿で、この場  
 本越え、この場  
 大っき、この場  
 エッ、この場  
 かつ、この場  
 ら、この場  
 かつ、この場  
 た、この場  
 の、この場  
 は、この場  
 や、この場  
 は、この場  
 リ、この場  
 一日、この場  
 日、この場  
 日、この場  
 徳、この場

と、この場  
 での、この場  
 かに、この場  
 かつ、この場  
 っ、この場  
 ら、この場  
 い、この場  
 合、この場  
 宿、この場  
 雪、この場  
 訓、この場  
 だ、この場  
 た、この場  
 は、この場  
 登、この場  
 る、この場  
 と、この場  
 き、この場  
 前、この場  
 の、この場  
 人、この場  
 に、この場  
 つ、この場  
 二、この場  
 一、この場  
 が、この場  
 一、この場  
 の、この場  
 思、この場

まず、完璧なトレーニング不足だということに気づ





昭和60年度

信州大学山岳会・SAC

新人合宿報告書

昭和60年6月18日発行

発行場所。

松本

〔〒390 松本市旭3-1-1〕

